

様式4-5

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入] 新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業	
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)	
受託者名	特定非営利活動法人みえきた市民活動センター	
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)	
受託金額	7,500,000円	
受託内容	管内NPOと連携して、「小さな市民活動応援基金を作る会」を立ち上げ、NPOに対する寄付金を集めるインフラを整備する。また、ITを活用して市民活動を身近に感じてもらえるように、地域に情報発信をおこなう。 ■平成24年度に達成しようとする成果 基金が本格的に活動するための体制を確立する。	
得られた成果 及び自己評価	※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。 事業開始以来10回にわたって毎月開催してきた「基金をつくる会」が、当期に「きらきら基金運営委員会」となって3回の会議を行いました。また、毎週のインターネットラジオ放送のゲストが78人となり、毎月3000部発行のまちのかわらばんも11ヶ月を越えました。その他のさまざまな情報発信に加えて、実際にきらきら基金をアピールする助成事業を行って活動が裏付けられたことで、やろうとしていることやきらきら基金を認めてくれる人たちが出て来ました。聞いたことがあるという人たちの中に、まだ少ないかもしれませんが知っているよと言ってくれる人たちが出て来ました。また、もっと少ないですが、70人ほどの人たちからは「寄付したよ」としてもらえる状態になりました。ここまで活動と情報を露出して、やっと少し、地域で市民活動に関わる人たちから「見られる対象」になったという実感があります。	
	評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に『』を付けてください。)

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

様式4-5

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業	
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)	
受託者名	四日市NPO協会 ※ 旧四日市NPOセクター会議 (平成24年5月12日名称変更)	
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)	
受託金額	6,055,600円	
受託内容	<p>資金を循環させる「市民活動ファンド」、人的資源を循環させる「人財ポケット」、物的資源を循環させる「モノバンク」の3で構成される、官民連携による市民活動への資源循環の仕組みを構築する。</p> <p>■平成24年度に達成しようとする成果</p> <p>①各種の寄付によるファンド原資獲得と多様な主体による財団法人設立</p> <p>②財団法人ささえあいのまち創造基金(仮称)による資源循環のしくみの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動を支援する寄付システムの確立 ・第1回寄付の市民活動への配分の実施 ・不用品・遊休地等の物件登録とマッチング ・人財ポケット登録と地域ニーズとのマッチング <p>③財団法人のキックオフイベント及び各種広報手段による市民への周知</p>	
得られた成果及び自己評価	<p>※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <p>①地域における市民セクターを支える重要なステークホルダーによる企画委員会を立ち上げ、5回にわたる会議を行うことで、市民活動の資源を多様な主体が力を合わせて支える機運が生まれた。その結果、本年8月の企画委員会において、2012年12月に、企画委員会をベースにした一般財団法人の設立を決定した。</p> <p>②基金設立に向け、イメージをつかむために京都地域創造基金の視察を企画委員会で行った結果、基金のイメージが明確になり、今後必要な寄付の集め方、基金運営における重要なポイントなどが把握できた。</p> <p>③四日市(菰野・朝日・川越3町の参加も前提)という、全国的な市民ファンドの中では小さい地域における、「顔の見える基金」の手ごたえが感じられる。</p>	
	評価ランク	<input checked="" type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> ：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に『』を付けてください。)

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

様式4-5

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入] 新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業	
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)	
受託者名	特定非営利活動法人市民ネットワークすずかのぶどう	
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)	
受託金額	3,608,168円	
受託内容	<p>団体が活動する場を提供し、団体間の交流を深めることでネットワークを築き、それらの団体の活動が活発になるように支援する。また、各団体に訪問、交流して団体情報を把握し、ネットワークに繋げるためのデータベースを作成する。</p> <p>■平成24年度に達成しようとする成果 鈴鹿市・亀山市市民活動データベースを作成し、そのプロセスのなかで亀山地域の中間支援を確立し、亀山市市民協働センターみらいの民営化提言を、鈴鹿地域の鈴鹿市市民活動センターの設立の必要性を提言する。</p>	
得られた成果及び自己評価	<p>※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <p>担当者同士の意見交換の積み重ねを踏まえ、鈴鹿市社会福祉協議会へデータ共有などの正式協力依頼書を提出、10月13日開催のふれあい広場イベント以降に協議を開始する。8月18日開催の亀山市主催の中間支援に関する講演会に参加し、意見交換・名刺交換を行った。今後キーパーソンの方々を訪問し新たな中間支援組織具体化への可能性を検討する。</p>	
	評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に○を付けてください。)

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)
受託者名	特定非営利活動法人津市NPOサポートセンター
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)
受託金額	6,688,280円
受託内容	NPO専門雑誌を発行し、イベント情報、ボランティア情報、企業CSR、協働に関する情報、寄付・助成金情報など、人・金・情報が雑誌を通じて循環するきっかけを生むように取り組む。 ■平成24年度に達成しようとする成果 設置箇所を50か所に増やします。
得られた成果及び自己評価	※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。 “ボランティアをすることでスキルアップに繋がる”ことを切り口に6月、8月に無事、情報誌「HAMACHI」を発行することができました。読者のメインターゲットを「生活の中で価値や質の向上を求めている。NPO活動の中であまり出会わない(見かけない)。」30代の女性に絞り記事を企画・掲載しています。 「HAMACHI」の記事は大きく分けて以下の5つとなります。 ・特集 ・ボランティア募集 ・ボランティア体験談 ・数字で見る三重のNPO ・その他 「HAMACHI」は今までのNPO関連の情報誌や広報誌とは違う“切り口”で多くの方に訴えかけていくことに注力しています。「伝えたいことをストレートに伝える」のではなく、「伝えたいことを別の切り口から変化球的に伝え、読み手の身近なものとして捉えてもらったあと、本当に伝えたいことに気づいてもらう」ことを心がけています。そのことでより多くの人へ間接的に課題を訴求していますし、既存

の情報誌等との差別化も図っています。

またフリーペーパーですが、紙の厚さを当初のマットコート 90 から、マットコート 110 に変更することで、厚みをもたせ本誌の格調を上げることにしました（捨てられないフリーペーパーにしました）。そのため発行部数が当初予定より減ってはいますがブランド化には成功しています。

Facebook とも連携を図り本誌で載せられなかった記事や、本誌掲載のためのアンケートを Facebook 上で行っています。9月16日現在の Facebook ページの「いいね」は116。アンケート開催時等は最大で4,000人にアプローチできています。

情報を伝える“切り口”の工夫は随所で行っています。たとえば創刊号では「まちづくり」を全面に押し出さず、婚活パーティーを切り口としたまちづくりの取り組みを紹介しています。第2号ではCSRを全面に押し出さず、地元企業のこだわり商品やサービス、特にメジャーではなく知って得をするような商品を紹介しました。どちらも、自分には関係ないという記事ではなく、興味があればすぐに参加できる、又はすぐに購入できるという点に気をつけています。

創刊号では地域活性団体を、第2号では企業2社の計3団体を取り上げています。

ボランティア募集のページである「+LIFE」のコーナーでは、A4 1ページにボランティア情報を集約し「あなたのスキルアップのための選択肢の1つとしてボランティアはいかがですか？」という表現の仕方をしています。またボランティアの受け入れ団体の背景が見えるよう、インタビュー記事を掲載しています。A4サイズ1ページに1団体を掲載している理由としては、そのページを印刷することで取材に応じていただいた団体自身が、ボランティア募集のチラシとして使えるためです。

実際にこの+LIFEの記事を読んでボランティアに参加している方もいます。

創刊号、第2号を合わせて8団体を取り上げています。

表紙に関しては公募形式にし、より多くの人を巻き込むよう工夫しています。特に地域のアマチュアデザイナーなどの活動発表の場になりつつあります。

雑誌自体の評判も良いため、120カ所以上の店舗等が設置協力していただいています。例えば桑名駅では、250部設置した結果213部がはけました。通常の飲食店などでも10部という少数部を設置させていただいていますが、設置後数日で0になるという報告をいただいています。一度取材させていただいた団体からも、再度取材に来てほしいという依頼もあります。

今後の展開として尽力していきたいことは大きく分けて2つあります。

1つ目は持続するための収入源の確保です。そのために現在、既存の雑誌等と競合しないような広告収入の工夫などを話し合い開発しています。また、雑誌と連動した空間（スペース）づくりの展開も進めております。例えばコワーキングスパー

<p>スのようなものを作り、そこを事務所兼地域のキーパーソンの拠点にし、収入を上げながら情報の受発信を行い、人も巻き込んでいくことを視野に入れて動いています。その事務所を活用して別プロジェクトで行っているコミュニティバンクもできれば人、情報、お金を回すことが可能になるのではないかと考えています。最低でも月 40 万円×12 ヶ月＝480 万円の収入を目指したいと思います。</p> <p>2 つ目は「HAMACHI」のより高いブランド化です。「HAMACHI」自身がより高い価値を生み出すことにより、そこに掲載されている情報（団体）にも付加価値がつきます。それによって多くの方へ信頼度の高い NPO 情報を届けることができます。そのため、雑誌だけに収まらず様々な場所へ出ていくことを検討しています。</p> <p>取材を通じて、様々な NPO や企業、個人と出会うことができます。そのことで制作スタッフのスキルが向上し、繋がりが増えています。また、取材に応じていただいた先が HAMACHI を応援していただき、少しずつ認知度も上がってきました。</p>	
評価ラ ンク	<input type="checkbox"/> S : 特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A : 優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B : 一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C : 限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D : 成果が得られなかった (該当する評価に〇を付けてください。)

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業	
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)	
受託者名	特定非営利活動法人Mブリッジ	
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)	
受託金額	4,000,000円	
受託内容	<p>認定取得を目指すNPO法人の制度改正への理解、その他地域での活動を支援する。そのために、松阪管内のNPO法人に向けて制度に関するアンケートを実施し、ファンドレイジングのキーパーソンとなりうる人材を抽出する。その後、キーパーソンとの間で勉強会、講座、相談などを通じて、地域での活動の幅を広げていく。</p> <p>■平成24年度に達成しようとする成果を具体的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会の実施 (仮認定NPO法人の取り方、認定NPO法人の取り方、活動計画書の書き方、財務諸表の書き方、注記の書き方、寄付の仕方、寄付を集めるパンフレットの作り方、パンフレットの配り方、インターネットを活用した寄付の集め方、チャリティイベントの作り方等) ・ 講座の開催 (実施予定内容：認定NPO法人、NPO法人の会計基準、NPO法人組織、寄付を集めよう、様々な資金調達、等) ・ 制度改正、情報開示に関する個別相談の開催 	
得られた成果及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瓦版の発行 (4/23、7/27、8/3、9/11) (会計基準および認定NPO法人制度に関する情報を中心に、1カ月に1度の頻度で情報誌を発行。) ・ チラシや案内等を随時発行・発送 ・ 職員が准認定ファンドレイザー資格を取得 ・ 講座の企画立案、及び広報 (実施内容：「NPO法人のための会計講座」と称し、実際の組織運営に役立つ実務的な側面からの会計及び認定NPO法人制度に関する講座を企画立案。講師として中尾さゆり氏(NPO法人会計基準協議会 専門委員)を招聘) ・ 勉強会の企画立案、及び広報 (実施予定内容：「お気軽サロン」と称するNPO法人同士の意見交換会によって、NPO法人としての組織運営や寄付に関する問題意識の向上を図る企画の立案) 	
	評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に『』を付けてください。)

2. 添付書類 その他参考となる資料 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入] 新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業	
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)	
受託者名	特定非営利活動法人Mブリッジ	
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)	
受託金額	8,310,000円	
受託内容	<p>企業とNPOが一緒になり、一般県民に向けた「社会広報誌」という広報誌を刊行する。その中で企業とNPOの活動をまとめ、それぞれの活動を伝わりやすくする。また、この広報誌をポスティングする協力者を募りつつ、活動の認知度を上げていく。</p> <p>■平成24年度に達成しようとする成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダミー紙を発行し、見える形を取りながら、短期間で信頼を獲得 	
得られた成果及び自己評価	<p>※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・編集チームを編成し、取材・ライティング・デザイン・編集を担うことによって、市民により伝わりやすい紙面を制作できた。 ・予定通り2回のダミー紙発行の後、アンケートを回収。90%の市民が「普段の生活が社会貢献につながるの是一件良いことと思う」と答えた他、「社会貢献やNPOになじみがないが、そうした壁をこわす記事を期待している」「新しい広報誌を楽しみにしている」という声を多くいただいたことから、本事業の活動は、多くの方から信頼を獲得できるものと考えている。 ・アンケートでは、前向きな意見も得られた半面、「興味を持つためにはもう少し詳しく書いてほしい」「課題が大きいため、ぴんとこない」という、生の声も得ることができた。これらを参考にし、よりよく伝わる広報誌を作るべきであると考えている。 ・上記アンケートに結果から、より広く町の意見を取り入れることがよりよい広報紙作りに必要であることがわかった。今後の展望として、町の有識者に監修委員として事業に参画していただき、より多面的で立体的な紙面作りに挑戦していきたいと考えている。 ・事業終了後、継続的に取り組んでいくためにも、より多くの参画者の協力を得ていくことが必要であると考えている。広告を含む広い視点を持った営業を検討し、実施していきたい。 	
	評価ランク	<p><input type="checkbox"/>S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/>C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/>D：成果が得られなかった (該当する評価に○を付けてください。)</p>

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし

※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入] 新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)
受託者名	特定非営利活動法人いせコンビニネット
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)
受託金額	7,312,080円
受託内容	<p>①リユースパソコン地域循環化プロジェクト（企業からNPOへの中古パソコンの寄贈推進）</p> <p>三重県内のパソコン提供企業数は、順調に推移してきているが、企業がパソコンを提供できるまでには、年数がかかり提供パソコン台数も多くを確保できないということが、営業をしている中から分かってきた。そこで、関東を中心とした都市圏の企業も視野に入れ、三重県としてパソコン再生する場を作ることを検討に入った。既存の福祉施設では、現状の作業をすることで手がいっぱいであり、また、パソコンを再生する作業をする基本的なパソコンの技術を持ったスタッフもあまりいないことから、パソコンを再生することのできる福祉施設を立ち上げることを計画し始めている。今年度は、当法人で雇用している障害者を対象にパソコン再生の指導を行い、25年度から新たな組織（福祉施設）を立ち上げる計画である。</p> <p>東北の地域でパソコンを再生する福祉施設に関しても、岩手県や山田町など行政を中心に打ち合わせを行ったが、まだ、震災後で新たな取り組みをできるほどの状況ではないこと、パソコンができるスタッフも持つ団体がないことなど多くの課題が出された。そこで、東北に関しては、ICTに関する基本的な支援を行うことのほうが優先であり、パソコンは別途用意してリユースパソコン寄贈プログラムを実験的に実施することから始めるほうが、結果的にNPOの基盤整備につながるかと考えている。※リユースパソコン寄贈プログラムを東北で実施できる基盤をつくることから始めることを検討している。</p> <p>また、みえイーパーツリユースPC寄贈プログラム実行委員会との連携により、FBでの情報発信などを行い、情報開示にも努めている。</p> <p>②志摩地域中間支援組織基礎調査プロジェクト（志摩地域を中心とした中間支援機能強化）</p> <p>志摩市民活動通信・SANPOによる団体調査も順調に進んでおり、調査結果をブログでまとめて公開している。この調査結果については、残りの団体を調査しながら随時ブログにアップし、最終的には、冊子にまとめていく予定である。この冊子に関しては、志摩市民活動通信・SANPOが活動をしていく上で、志摩地域の団体からの相談があれば、その冊子を活用したり、三重県内の中間支援組織やセンターに配布し、三重県内における志摩地域の団体がある存在をアピールする支援として志摩市民活動通信・SANPOが活用していくことを想定している。また、ステ</p>

	<p>ークスホルダーに関しても、調査を進めており、最終の報告書で整理する予定である。これらの活動に対して、当法人としてバックアップをし、当初団体同士をつなげるノウハウや人的資源を提供しながら、志摩地域の基盤強化を図る。</p> <p>③NPO法・税制改正啓発プロジェクト</p> <p>今年度は、NPO法改正・税制改正の講座（4月）、新NPO法人会計基準講座（8月）に実施済みであり、この2つの講座に参加しなかったNPO法人、また、いせ市民活動センターや志摩市民活動通信・SANPOの登録団体を中心にミニセミナーや個別訪問をこの後随時実施していく。</p> <p>■平成24年度に達成しようとする成果</p> <p>①パソコンの寄贈プログラムを三重県版にし、県民、NPO、企業、行政などを啓発 三重県内でパソコン払下げ企業 15社（24年度末） 再生してもらえる作業所の確保 三重県内 1社（24年度末）</p> <p>②志摩地域のNPOの訪問調査を通じて中間支援組織の強化とネットワークの充実 志摩地域のNPO団体調査件数 100社（24年度末） ステークスホルダー人材掘り起し 20名（24年度末） ステークスホルダー団体掘り起し 20名（24年度末）</p> <p>③NPO法・税制改正を南勢志摩県民センター管内への啓発 NPO法改正講座の会議出席 2回（23年度末） セミナー及び個別訪問等参加者数 70名（24年度末）</p>		
得られた成果及び自己評価	<p>※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <p>①リユースPCに関しては、対企業の状況や東北の状況から、若干の事業内容の改善を行っていく必要性がでてきたが、全国の地域版リユースPC全国会議では、三重県の取り組みは進んでいるという評価をいただいていた。日本マイクロソフトや大塚商会、トレンドマイクロ、ブラザー販売など大手の企業の前でも、プレゼンを実施してきたところある。この仕組みを三重県版として改革することに概ね成功したといえるが、運営面でまだまだ課題があるとも言える。</p> <p>②鳥羽地域に関する課題が残るが、これは、③事業でカバーすることを考えている。</p> <p>③南勢志摩館内のNPO法人を対象にこれまでは順調に進めてきた。これからの課題としては、NPO法人ではない団体や、NPO法人であるが、目先のことで手がいっぱい法律改正などに関心が薄い団体をどう支援していくかが課題となっている。</p> <table border="1" data-bbox="400 1742 1447 1868"> <tr> <td data-bbox="400 1742 528 1868">評価ランク</td> <td data-bbox="533 1742 1447 1868"> <input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に□を付けてください。) </td> </tr> </table>	評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に□を付けてください。)
評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に□を付けてください。)		

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)
受託者名	特定非営利活動法人なばり NPO センター
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)
受託金額	6,500,000円
受託内容	NPOや市民のために、NPOの活動や寄付税制についての講座やイベントを開く。それらを通じて、NPOの寄付の獲得、NPOや中間支援組織の認識化の促進、多様な主体との協働などを目指し、事業規模を拡大していく。 ■平成24年度に達成しようとする成果 名張地区以外の講座を何とか予定通り実施する 企業との協働を実現 寄付収入100万実現
得られた成果及び自己評価	<p>※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の法改正について、自覚されている団体さんとそうでない団体さんがありました。講座開催のご案内をした際、すでに定款変更などを済まされている法人さんもありましたが、「法改正はわかっているけど、どうしたらいいのか・・・」というようなことがあったり、ギリギリになって慌てて連絡があったりしました。定款変更など、重要な事柄については2回くらい講座を開設しないとそのこと自体を周知できないと感じました。1回目は周知として認識のはっきりしてる方はその段階で参加されると思います。その辺り、この伊賀地域の認識度に合わせた講座の開催の仕方などを考えていかなければいけないと感じました。ですが、法改正のことや会計基準のことなど、解りやすい資料が欲しいと言った声があがったことなどから、我々はそういった声に応えられるようなマニュアル作りや資料作りといったものが必要かとも感じました。 名張地区以外の講座の実施についてはすでに2回行っており、この先も3回は決定しているので予定通りの回数とまではまだいきませんが、それなりに成果は出せてきているのではと思います。 ・多くの主体との協働ということに関しては、行政職員向けの講座も開催が決定していますし、社協や高専との話も少し見えてきているので、成果が得られてきているのではと感じます。 高校大学での講座としてあげているものでは、まだ詳細は決定してはいませんが、近大高専の企画担当の講師へのアプローチは順調に進んでいます。その結果、近大高専での学生向けのセミナーは、年間の行事予定が決まっていることから、今年度は開催できないことになりました。ただ、地域とのつながりの大切さや、NPOが何者なのか、を先生方自身も勉強したい、学生たちにも知ってもらいたいと興味はもっていただけました。 企業との協働については、まだまだアプローチが必要かと思いますが、今年もワールドカフェを1回は開催しますので、そこでまた協働していけたらと思います。 ・千石先生の「いのちはみんなつながっている」の上映会について。動物学者の故千石先生が病気を患って取材したがテレビで放映されなかったフィルムがあると、地元の方よりご紹介があ

り、上映会の開催をすることとなりました。カエルもゴキブリも草花だってみんなつながっている。彼らが生きていくためには人はどうすればいいか・・・など、いのちは循環しているんだということについて子どもから大人まで考えてもらいたいと思っています。それを気づきとして、では自分たちの住む地域ではどうなのかということを考え、どういった人がどういった活動をしているのか知ってもらうきっかけとし、今後を担う後継者となっていってくれればと思っています。地域で活動するNPOやボランティア団体、自然や動物の保全活動に関わっている団体さんなどに声をかけ、一丸となってこの事業をやろうと協力をお願いしています。現在でも、10団体ほどが協力をしてくれ、上映会当日の進行などについて実行委員会を設けています。個々に活動していたものが、お互いを知り理解しあえるきっかけになっていると思っています。また、上映会に変更した理由としては、NPO向けの講座も大切だけれど、少し大きな事業を行い、より多くの人にNPO活動について知ってもらうきっかけづくりとしたいと考え、ここから、他の講座への興味にも結び付けられたらと開催することとなりました。

・企業家が考える地域の活性化の懇話会について。名張と伊賀の地元で生業をされている企業のトップ3名ほどに集まってもらい、地域の活性化などについて企業家からみたく線で意見を出し合ってもらおう公開討論会。先日、地域の円卓会議が行われましたが、企業家たちも地元のことを思っています。地縁団体やNPOとは違う目線の思いを聞ける機会になると思います。

・寄付金100万実現にむけて。職員の不在時期があったこともあり、正直厳しいのが現実ではありますが、できる限りやっつけようと思っています。企業さんにどうやってこの事業の意味を理解してもらい、賛同してもらうか・・・更に考えていかなければなりません。

評価ラ ンク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に□を付けてください。)
-----------	---

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。

様式4-5

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)
受託者名	東紀州コミュニティデザイン
実施期間	平成24年4月1日～平成24年9月30日 ※ 契約期間：平成24年4月1日～平成25年3月29日 (事業開始：平成23年10月1日～)
受託金額	3,724,000円
受託内容	現在、東紀州での市民団体の繋がりが不十分なため、4つの事業部（コミュニティカフェ事業部、キタガワノホトリ事業部、防災・減災事業部、中間支援事業部）を創設し、各分野ごとに連携、ネットワーク化を促進する。 ■平成24年度に達成しようとする成果 4つの事業部の焦らない遂行・継続、キタガワノホトリの認知と収益事業の増加
得られた成果及び自己評価	※ 支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。 ■成果指標の達成状況 および事業の効果 ・コミュニティカフェ事業部は、新たなコミュニティカフェの改装を終え、9月より日替わりコックさんによるランチの提供めざし準備をはじめ、11月末にはオープン予定で進めています。ただし、ワンディシェフ方式を採用するにあたり、シェフの確保に苦労するだけでなく、1日20人の顧客を獲得する難しさが大きな課題です。常時営業が可能になるまでには、一定期間の猶予がいたと考えていますが、収益事業の一つであるので、トライアンドエラーで対応していこうと考えています。 ・キタガワノホトリ事業部は、8月より新規テナントが参入し、定期イベントである北川マーケットには、オハヨウキタガワという朝市も同時開催する企画が9月よりスタートします。市民団体の活動拠点となるように、さらなる広報と周知を進めていきます。収益事業としては、テナント料、イベント主催による収益など、公共性が高いことから、収益が見込め難い特徴があります。例えば、県民センターのNPO担当がいままで担っていたことを移管するなどして、固定費の確保が出来ればと考えています。

	<p>・中間支援事業部は、尾鷲イタダキ市実行委員会の事務局委託を受け、8月には、これまでの事務局より完全移行しました。委託料が発生する唯一の収益事業として、抜本的な改革も提案しています。この秋からは、市民団体のデータベース化事業を主宰することになり、官民協働のイベント開催など、市民活動支援センターとしての役割も本格的に担うこととなります。また、外郭NPOとの連携事業も増えつつあります。この事業部の収益は、事務局委託を受けることによる委託料の発生が主となっています。しかし、キタワガノホトリを利用したNPO関連の相談業務や紹介業務など、公共性の高い活動も必要とされているので、これに対する収益をどこから得るのが課題です。なお、現在2つの組織からの依頼で、来年4月からの法人化をサポートしています。今後は、このような法人化も主たる業務になると予測しています。</p> <p>・防災・減災事業部では、豪雨災害の先遣隊派遣があり、熊野レストレーションと協働して活動してきました。秋から冬にかけて、防災ボランティアコーディネーター養成講座の講師などの依頼も受けています。また、外郭NPOとの連携事業も、11月に開催します。活動は、災害派遣の実行部隊である熊野レストレーションとの協働によって成り立っています。この組織は、一般社団法人化を目指しているため、日常的な活動はもとより、緊急時に動きやすくする資金調達や確保など、事業部主導で進められたらと考えています。</p> <p>・職員の人材育成の面ですが、4月と5月と8月に、計3名を新規雇用しました(うち8月雇用は試用期間雇用)。これまでとは違う部分は、事務局長ミーティングとスタッフミーティングを義務化し、スタッフ間の状況共有をしています。また、Facebookによる情報発信と、紙ベースのチラシなどを周辺地区に手配りする情報配信の2つを活用し、広報にも力を入れるようになっていきます。さらに、地元新聞などへの報道資料提供も積極的に行うことで、より多くの認知を得る手段を講じています。収益を上げにくい業種ですが、薄く広くを目標に、スタッフの手探りの苦労は続いています。</p>
評価ランク	<p>□S：特に優れた成果が得られた □A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/>B：一定の成果が得られた □C：限定的であるが成果が得られた □D：成果が得られなかった</p> <p>(該当する評価に『』を付けてください。)</p>

2. 添付書類

その他参考となる書類 なし ※ 都道府県において適宜設定すること。